

「日中植林・植樹国際連帯事業」中国公益活動家中堅幹部代表団  
参加者の感想（抜粋）

○訪日活動期間は1週間だけだったが、感想はあまりにも多い。接遇は親切できめ細かく、感激に堪えない。一部の内容では深い認識が得られ、これまでの認識が覆るほどの発見もあった。感想は多いが紙面には限りがあるので、簡単に述べたい。

1. 教育の成功。東邦高等学校の訪問は、深く印象に残った。日本の教育理念は進んでおり、立派な人格を育成し、総合的に成長させている。日本でも中国でも生徒は一流大学受験へのプレッシャーがあるが、日本では伝統文化や防災、環境保護、さまざまな部活動など、文化や授業以外の知識の教育にも努めている。これに比べると中国の生徒は実にかわいそうで、自分の関心を十分に広げることができない。良い成績だけが求められ、それが唯一の目標となっている。日本では学校での成熟した教育が良い効果を生み、訪日観光客一人一人に良い印象を与えるのである。時間を守る、交通規則を守る、上品で礼儀正しく、清潔、静かであること等々、これらは皆、中国人がなし得ていないことであり、心が震えた。木を育てるには十年、人を育てるには百年というが、日本の成功経験の一つは、教育である。

2. 強い環境保護意識。公害の発生後、国が積極的に対応し、法律や基準を制定した。地方自治体の基準は国家基準よりさらに厳しく、それでも企業はやり遂げ、しかも基準より良いレベルを保っている。企業は環境保護のためにコストを惜しまず、厳格な達成目標を立て、新鮮な空気ときれいな水のために努力している。50年前に発生したことのすべてが、現在の中国で起きている。中国がどのように対応し防止するのか、非常に厳しく現実的な問題であり、逃げたり無視したりすることはできない。真正面から解決していかなければ、払うべき代償は計り知れない。

3. 中日の友好、東アジアの平和。民間交流はとても重要で、理解と友情を促進し、誤解を解いていくものだ。

○記念植樹や環境防災分野の視察、その他の視察や交流を通じて、環境保護と人類の生存とが互いに密接な関係にあることを、初めて深く悟った。また、日本の企業が環境保護の分野で果たしている役割や社会的責任を学ぶことができた。三菱ケミカル株式会社四日市事業所の職員の語った、「国民の利益を犠牲にしてまで国際競争力を得ることはできない」というこの一言には、心を打たれ、敬服した。

滞在中は日本の文化や礼儀を深く体験し、初来日の私には、考え方も知識の面でも、とてつもなく大きな変化があった。以前は、閉ざされた愛国主義思想や、限られた情報、幅の狭い交流経験などが、私をこの国への訪問から遠ざけていた。今回、幸いにも私は訪日の機会を再び逃すことなく、責任ある企業を訪ね、造詣の深い学者に会い、善良な日本人に接し、博愛心に満ちた中日友好の民間大使に出会った。一人の中国の若者として、歴史を忘れないのと同時に、より未来に着目したい。人と人、心と心の交流は、政治や国家を誤らせない。中日の友情が末永く続くよう、いくばくかの貢献をしていきたい。世界の平和と、中日の友情が続くことを祈る！

○以前、一般観光客として日本に来たことがあるが、その時には今回ほど深い体験をすることはなかった。

今回の訪日では、日本の環境対策や環境保護分野における成果、また日本人が環境に対して行っている努力について、深く理解することができた。さまざまな努力の過程において表れている日本人の国民性や遵法意識、科学的素養など、多くの面で学ぶべき点があった。

外務省のブリーフでは、中日両国の国民が歴史的原因によって友好を損なっている状況が非常に深刻なものであることを知るなど、訪日を通じて自分自身にとって多くの啓発があった。今後も同様のプログラムを実施して、中日青年の交流が促進され、相互理解が深まることを願う。

日本の公益活動家や青少年が中国を訪問し、交流することを心から歓迎する。今回のような記念植樹を行うことも良いし、さらには中日両国の青年が第三国を訪問して交流することも良いと思う。

○公益財団法人東京財団との座談会で最も印象深かったのは、日本側が戦争問題に関して述べた、「第二次大戦後、日本人は100%、全員が戦争に反対しており、日中間のいかなる問題も武力解決すべきでない」という意見である。この観点は、人類の利益を最大に保護するものである。戦争は、ただ双方に傷をもたらすばかりのものである。三菱ケミカル株式会社四日市事業所の視察を通じて、かつて公害を生み告訴された企業が、国の規定に基づき、大量の資金を投じて環境保護設備を導入し、最終的に排出基準をはるかに下回る値を達成していることを知った。まさに環境と人間に対して責任を全うしているのだ。小島プレス工業株式会社の視察では、小島会長の友好の精神に感動した。個人の力だけで日本と青海省の交流を推進し、私心なき支援で中国人留学生の生活や日中の友好を大きく改善してくれている。これらの活動プログラムによる収穫は、一般の観光では得ることができない。日本の熱心な接遇と緻密に組まれた手配に、心から感謝する。今回の訪日を通じて自分自身を充実させ、認識を深める機会を私に与えてくれたことに感謝する。私は、今回の訪日で見聞したこと、考えたこと、交流したことを周囲の友人に伝え、皆がそこから人間本位の精神を感じ取り、日中の友好と世界の平和のためにできる限りの貢献をすることを願ってやまない。

○1. 環境保護。厳しい環境基準、そして企業の遵法の熱意と自主性、非常に強い責任感が、強く印象に残った。日本全体の産業のグレードアップのプロセスと、その過程において支払った悲痛な代償に、日本政府、日本企業、日本国民は正面から向き合い、現在と未来のために努力をしていることを、痛切に感じ取った。このようにして初めて、「国民の健康を犠牲にしてまで経済成長は望まない」という高い品格を示せるのである。

2. 民俗文化の継承。東邦高等学校の家庭科の授業では、中高年のご婦人が生徒に和服の着付けを教えていた。これは学校の正式な授業の一部であり、日本人が民族文化の継承を重視しているのだと感じた。礼儀作法や環境保護意識などの理念は、当然ながら幼いころから育まれており、子供にとっては習慣になっている。価値観の育成により作り上げられる一貫性のある完全な体系は、現段階の中国の学校で不足している点である。

3. 信義。小島プレス工業株式会社はトヨタ一社主義を貫き、全身全霊でトヨタの業務を請け負っている。これはすでに一般的なビジネス契約の精神を超越しており、“信義”というしかない。“好調な時には皆で一緒に発展し、不調な時には互いに助け合って難関を乗り切る”、企業間で、利益の応酬がある上にさらにこれほどできるのならば、人と人とはいかに交わり付き合っているのかと、深く考えさせられた。